

組合名等	相模川漁業協同組合連合会					酒匂川漁業協同組合					早川河川漁業協同組合					湯河原観光漁業協同組合					川崎河川漁業協同組合				
	内共第1,18号、解禁日：6月1日					内共第3号、解禁日：6月1日					内共第4号、解禁日：6月1日					内共第6号、解禁日：6月7日					内共第12号、解禁日：6月1日				
解禁日の状況	遊漁者数	1人当たり尾数		平均		遊漁者数	1人当たり尾数		平均		遊漁者数	1人当たり尾数		平均		遊漁者数	1人当たり尾数		平均		遊漁者数	1人当たり尾数		平均	
		最多	平均	体長	体重		最多	平均	体長	体重		最多	平均	体長	体重		最多	平均	体長	体重					
	578人	150尾	20尾	15cm	35g	330人	40尾	12尾	17cm	35g	94人	132尾	25尾	約15cm	－	24人	53尾	23尾	14.2cm	16g	約15人	14尾	2尾	13cm	11g
解禁日以降の状況	・相模川下流部：釣果は少なかったが、アユは大きめ。釣果は平均30尾。（第二漁協） ・相模川中流部：座架依橋周辺でアユルアーが多く混み合っていた。釣果は平均30尾。 ・相模川上流部：友釣り区域は、放流したもの釣果が少ない。平均20尾程度。 ・中津川中下流部：ダムから川への放流量が例年より比較的多かったため、河床が良く、釣果があった。（第一漁協） ・中津川上流部：放流したもの、ほとんどの遊漁者は釣果がなく、1人当たりの平均尾数は記入困難。（中津川漁協） ・道志川（青根地区）：水温が低く、釣果は例年より若干少ない。（津久井漁協）					・山北地区：解禁日の釣果は悪く、事前放流を行ったがカワウに捕食された可能性もある。特に山北地区に多くのカワウが見られていた。50～80羽（早朝4時～6時頃） ・松田地区：特に釣果が良かったのは新十文字橋から十文字橋の間、2日目もこの場所の釣果が良かった。カワウは比較的少ない。 ・小田原地区：報徳橋下流域が特に良く、他の地点はぼつぼつの釣果でした。支流の狩川は鮎ルアーの釣果や、コロガシの釣果も良かった。カワウは少ない。					・天然遡上が悪かった。 ・天然遡上が遅かったせいか下流の釣果が良かった。上流はあまり釣果良くない。					・水量が多い。 ・水温が低く、友釣りの釣果は差がある。 ・毛針釣りが多い。やはり水温が低い影響で、場所により釣果に差がでる。					漁場 釣り人 サイズ 釣果 宇名根 6名 11cm～19cm 0～14尾 宿河原 3名 ー 0尾 ・急に気温が下がったこともあり鮎の活性は低かった。 ・釣れないこともあり、解禁日なのにすぐに帰ってしまう人も多く釣り人は少なかった。				
漁法別の釣果	漁法	1人当り尾数		平均の体長 又は体重	漁法	1人当り尾数		平均の体長 又は体重	漁法	1人当り尾数		平均の体長 又は体重	漁法	1人当り尾数		平均の体長 又は体重	漁法	1人当り尾数		平均の体長 又は体重					
		最多	平均			最多	平均			最多	平均			最多	平均										
	友釣り	26尾	8尾	16cm 31g	友釣り	20尾	10尾	17cm 35g	友釣り	55尾	25尾	約15cm	友釣り	11尾	7尾	15cm	友釣り	－	－	－					
	毛針釣り	38尾	10尾	17cm 20g	毛針釣り	30尾	13尾	13cm 20g	毛針釣り	132尾	39尾	約13cm	毛針釣り	53尾	28尾	13cm	毛針釣り	－	－	－					
	コロガシ	150尾	44尾	14cm 35g	コロガシ	40尾	15尾	13cm 20g	コロガシ	－	－	－	コロガシ	－	－	－	コロガシ	14尾	2尾	11g					
	ドブ釣り	27尾	9尾	15cm 30g	ドブ釣り	25尾	18尾	12cm 18g	ドブ釣り	112尾	47尾	約13cm	ドブ釣り	－	－	－	ドブ釣り	－	－	－					
ルアー釣り	40尾	30尾	15cm 35g	ルアー釣り	25尾	12尾	13cm 20g	ルアー釣り	9尾	3尾	－	ルアー釣り	－	－	－	ルアー釣り	－	－	－						
水量と水温	水量の動向	水温の動向		水温	水量の動向	水温の動向		水温	水量の動向	水温の動向		水温	水量の動向	水温の動向		水温	水量の動向	水温の動向		水温					
	少ない	平年並み		19℃	平年並み	平年並み		19℃	少ない	平年並み		18℃	多い	低い		17℃	少ない	低い		20℃					
今後の見通し	・大雨に期待するもダムからの濁水の長期化が心配。（第一漁協） ・数は少なめだが、石の苔の付き方次第では大きく育つと思う。（厚木観光） ・天然遡上は少なく、放流した人工産が群れで流下した場合、放流した区域での釣果は期待が薄い。（中津川漁協）					・3日に台風6号の影響により1m程度の増水と濁りにより漁場環境が悪化し、さらに7日の夜に雨が降ったが、解禁以降もポイントによっては良型のアユがつれています。しかし釣れないポイントもあるため、随時放流を予定しています。 ・天然遡上も昨年度の約半分以下で、遡上が遅れているかと思っています。6月5日に飯泉の魚道を確認するとまだ多くの遡上している天然アユを確認済。 ・全体的にみると極端に小さい鮎は見られないため今後に期待しています。					・川に棲息する動物を食べつくす川鵜（海鵜）の数を減らす管理が出来ると川・海に棲息する魚が増えるでしょう。					・遡上が少なく放流鮎の生育次第。					・遡上数は平年並みだが、サイズが大きい。				
前年との比較	・天然遡上鮎の減少と濁水による河川環境の悪化で、前年と比べ、釣り人も釣果も大きく減少している。（第一漁協） ・釣果は前年の方が多かった。（第二漁協） ・アユの大きさは、前年よりも大きかった。（第二漁協） ・水量が少なく、今後の釣果が心配。（相模川漁協）					・今年のこの時期の鮎は、昨年より大きい。この時期で23cmの大物が釣れています。 ・解禁日の酒匂川水系で330人という人数は、昨年度と同じくらいです。 ・釣れる人は釣れますが、釣れない人もいます。 ・漁場環境を確認しつつ放流を考えています。					・解禁日の釣り人と釣果は例年になく良かった。					・遡上鮎は前年より若干大きいと思われる。（生育が良い） ・放流鮎の生育次第で期待したい。					・この時期としてはサイズが大きい。 ・雨が少ないので、石に苔が付かない状況になっている。そのため上流まで鮎が遡上してしまった可能性がある。				
放流の状況	人工産		海産			人工産		海産			人工産		海産		ダム湖産	人工産		海産			人工産		海産		
（実績）	8,470kg 430,000尾		－		－	1,430kg 102,300尾		－		－	330kg 33,000尾		－		400kg 30,000尾	200kg 16,700尾		－		－	320kg 30,000尾		－		－
（予定）	390kg 19,500尾		2,140kg 107,000尾		－	順次放流予定		－		－	－		－		200kg 2,000尾	－		－		－	－		－		－